



2017.07.31

CSR-NPO未来交流会2017開催報告 アンケート結果

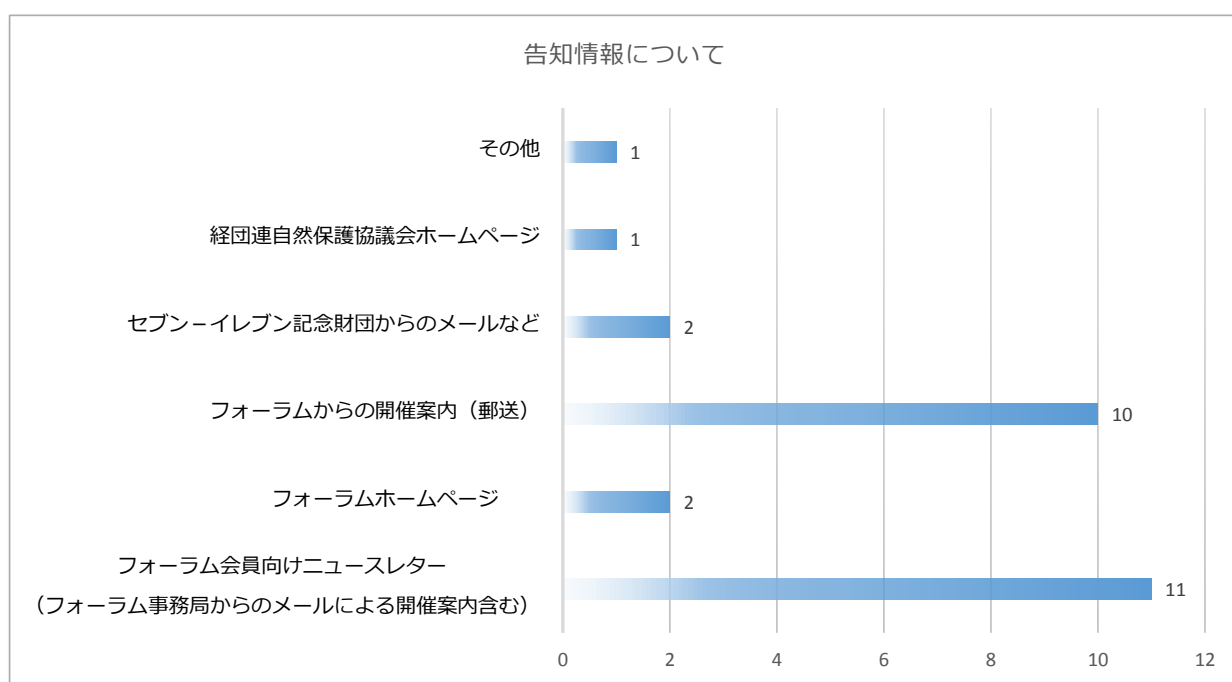
- アンケート回答者：23名、無記名方式、会場配布・回収
- 講演テーマ：「参加型 体験研修プログラム事例研究交流」
- 開催日：平成29年7月20日（木） 13:00～16:30
- 開催場所：東京都千代田区麹町5-1 弘済会館4F（萩）
- 参加団体：33団体、47名

CSR-NPO未来交流会2017は、新しい試みとして社員参加ができるメニューを持つNPO組織のプログラムの紹介を行った。テーマは「参加型 体験研修プログラム事例研究交流」。アンケートの回答は、おおむね好評が寄せられている。アンケート内容は下記の通り。

本交流会の開催情報の入手方法を尋ねた。会員向けの案内メールとチラシ同封のダイレクトメールがその役割を果たしている。

設問<CSR-NPO未来交流会2017は何でお知りになりましたか>

<複数回答、単位：件数>



前回の交流会で不足していた企業への案内のDMを増やし、告知範囲を広げた結果となっている。

その効果で企業からの参加も前回より増加している。また、日ごろの活動での会員メールも効果的で、フォーラム活動をサポートいただいている会員からの反響が反映された結果となった。



2017.07.31

プログラム内容は下記の通り。

I 部 組織連携事例講演

(敬称略)

- | |
|--|
| 講演 - 1 海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」 |
| 吉田 美緒：横浜市温暖化対策統括本部 |
| 講演 - 2 B & G企業研修・水上スポーツを通じて、できる社会人を育てる |
| 宮崎 秀一：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンアイランド財団 |
| 講演 - 3 交流会マッチング事例 -子ども達の学び舎を守る！NPO×企業でできること- |
| 神保 清司：NPO 法人 千葉自然学校 |
| 講演 - 4 自然体験型の企業研修によるコミュニケーション能力の醸成 |
| 山崎 宏：NPO 法人ホールアース研究所 |

設問<参考となった講演内容>

複数回答の設問で、参考ポイントが高かったのは、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」のテーマ。横浜方式のブルーカーボンへの取り組みへの関心は高く、自治体の中でも、最も先進的な取り組みとして評価された。

また「自然体験型の企業研修によるコミュニケーション能力の醸成」で、NPO 法人ホールアースのグループ活動は、自然学校活動の経験値が高いことから高評価と受け止められる。

II 部 プレゼンテーションセッション

(敬称略)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------------|
| ① 体験型研修とカウンセリングの事例 | 治郎丸 世志子：NPO 法人 Up/教育コンサルティング コンチェルト |
| ② 企業と連携で進める自然保護 生物多様性保全活動の事例紹介 | 岩橋 大悟：公益財団法人日本自然保護協会 |
| ③ 都市農業がまちづくりに貢献する役割について | 若尾 健太郎：西東京農地保全協議会 |
| ④ 東京湾の歴史とものづくりの原点を知る「海苔つけ体験」 | 小山 文大：認定 NPO 法人海苔のふるさと会 |
| ⑤ 自然と共存できるまち | 横山 清美：浦安三番瀬を大切に作る会 |
| ⑥ 「江戸前干潟研究学校」江戸前魚類にとっての真水の魅力調査 | 風呂田 利夫：認定 NPO 法人行徳野鳥観察舎友の会 |

設問<参考となったプレゼンテーションセッション内容>

「江戸前干潟研究学校」江戸前魚類にとっての真水の魅力調査、「企業と連携で進める自然保護 生物多様性保全活動の事例紹介」の二つのテーマが、参考としての高い評価を受けた。

III 部 情報交流会 (30分×2セッション)

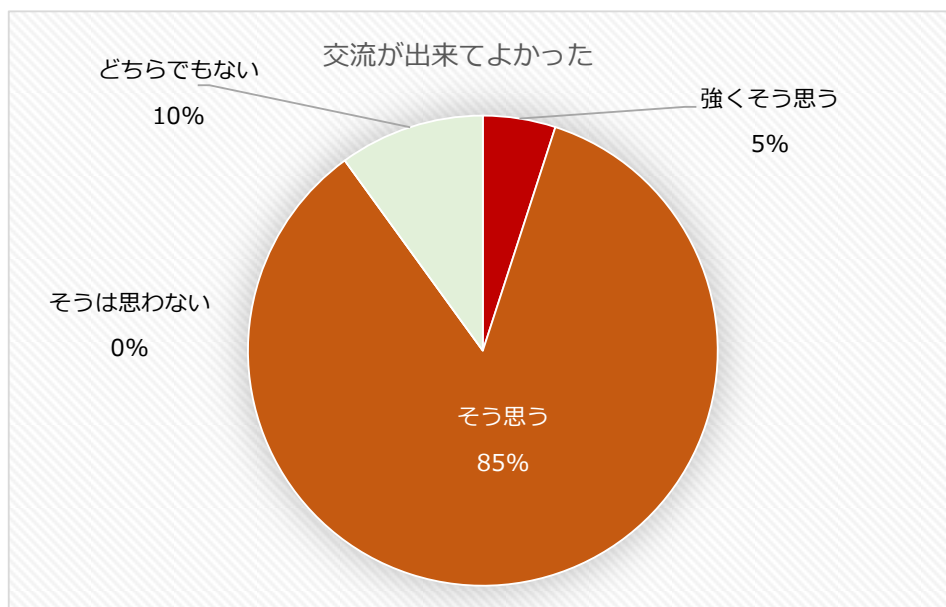
参加団体・組織の交流の仕方として、二つのグループに分かれ、時間により一部の参加者の入れ替えながら、情報交換を実施した。コミュニケーションのコーディネータを中心にそれぞれ、自己紹介、参加目的、現在の CSR 取組の現状、交流会への期待などや講演者・プレゼン団体の意見交換が図られた。



2017.07.31

○設問<交流印象をお聞かせください>

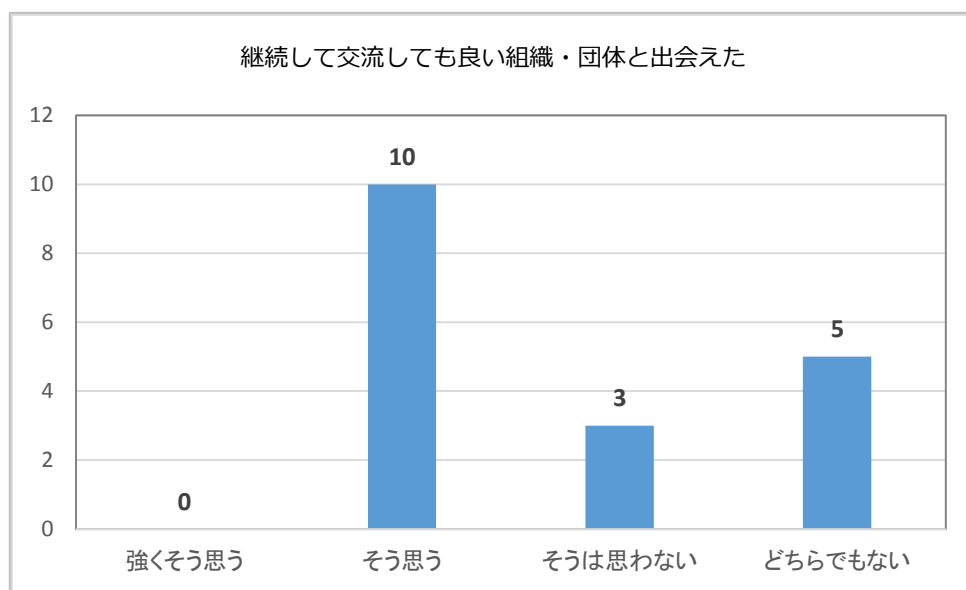
設問 1 ■ 交流が出来てよかった？



「強くそう思う」、「そう思う」の回答者が90%にのぼり、交流会参加の価値を見出している。

設問 2 ■ 継続して交流しても良い組織・団体と出会えた？

<複数回答、単位：件数>

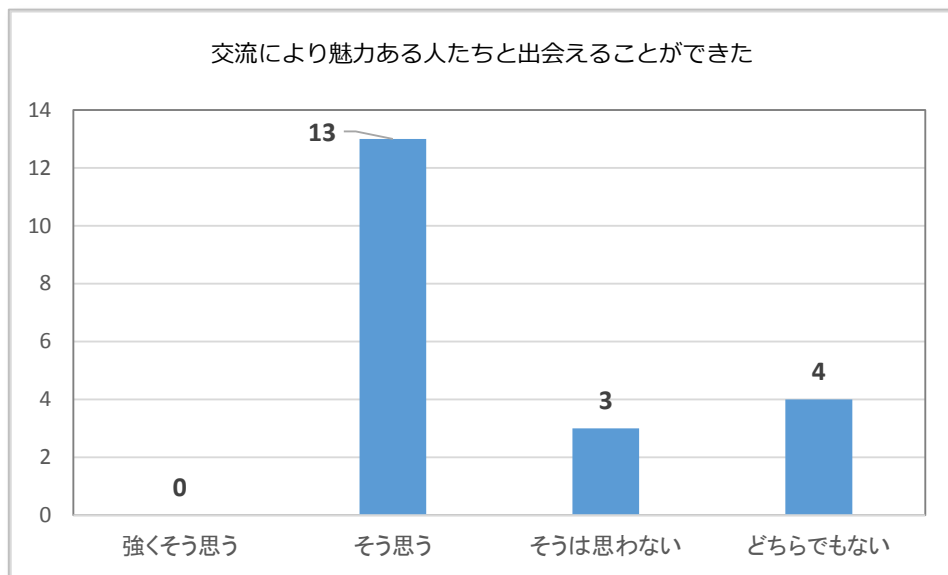




2017.07.31

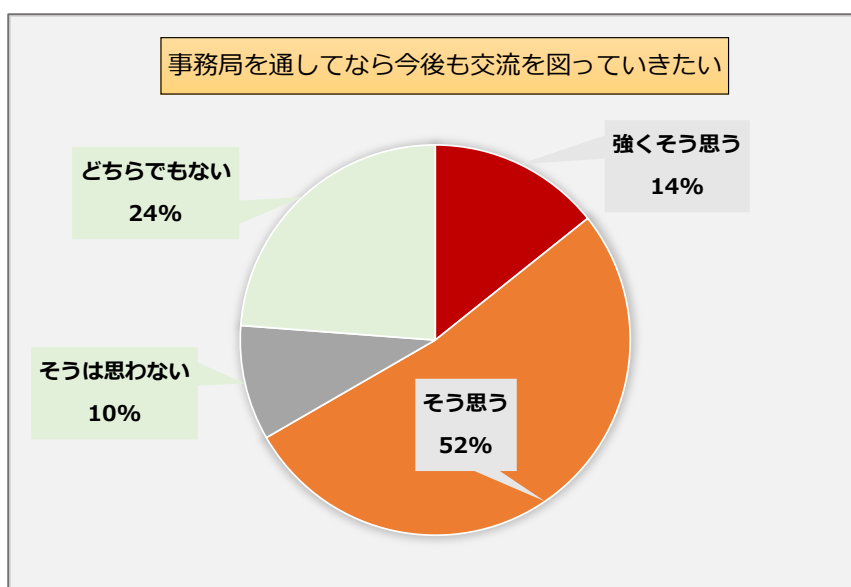
設問 3 ■ 交流により魅力ある人たちと出会えることができた？

<複数回答、単位：件数>



「そう思う」のポイントが高く、交流会での組織、個人との新しい発見があり、相互での興味関心事と認識できる結果となった。

設問 4 ■ 事務局を通してなら今後も交流を図っていききたい？



66%の回答者が、事務局機能の価値を見出している。「どちらでもない」の回答が 24%、「そうでない」10%となり、交流後の直接相互のやり取りの希望、またはケースにより事務局機能が必要と推測できる。